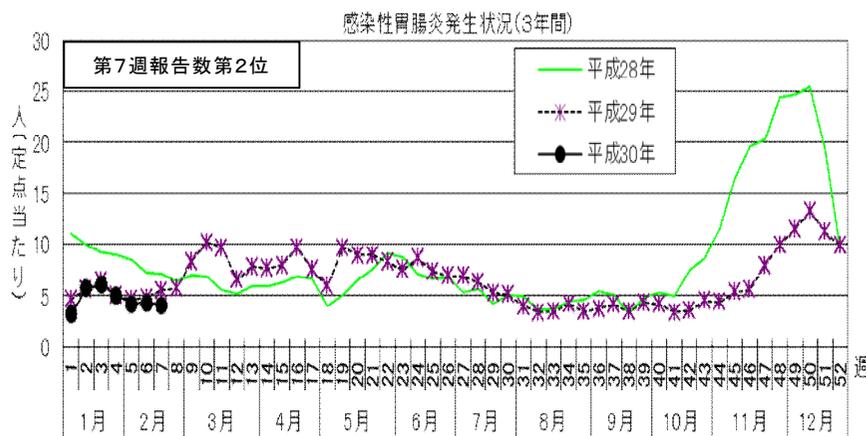
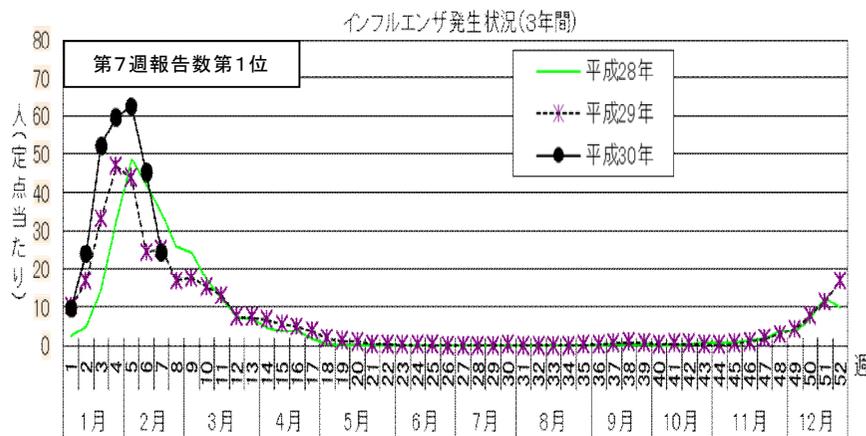


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年2月12日（月）～平成30年2月18日（日）〔平成30年第7週〕の感染症発生状況

第7週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。インフルエンザの定点当たり患者報告数は24.36人と前週（45.26人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.08人と前週（4.32人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.70人と前週（2.54人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



こんな病気にも気をつけて！～A型肝炎～

A型肝炎はA型肝炎ウイルスを原因とし、一過性の急性肝炎を主症状とする感染症です。我が国では、上下水道などの整備により患者数は激減したものの、現在も年間130～430件程度の報告があります。

過去5年間においては、全国の届出のうち男性が59.8%を占め、20歳代～60歳代と幅広い年齢層の患者（無症状病原体保有者含む。）の報告がありました。

A型肝炎とは？

感染経路：患者糞便中のウイルスによって汚染された飲食物や人の手を介して感染する。また、性的接触により感染する場合もある。

潜伏期間：2～7週間

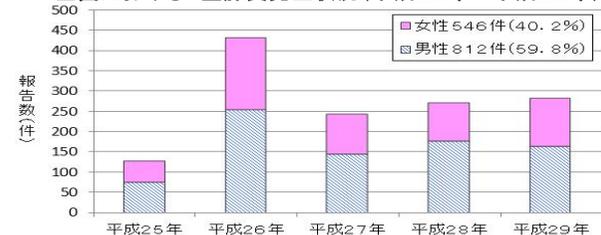
症状：38℃以上の発熱、全身倦怠感などの症状に続いて、食欲不振・嘔吐などの消化器症状を呈し、その後、黄疸、肝腫大、濃褐色尿などを認める。1～2か月の経過後に回復するが、まれに、劇症化して死亡する例もある。

※成人では小児に比べ、症状の程度が強いことが多く、高齢者では重症化（劇症化、死亡）しやすい。

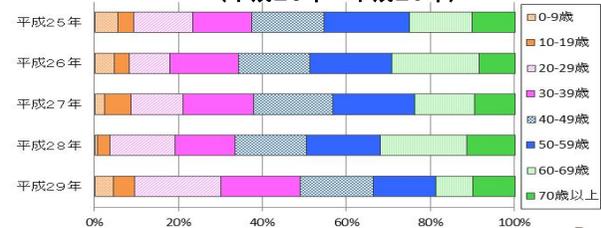
治療：特異的な治療法はなく、対症療法が中心

予防方法：手洗い等（ワクチン接種も可能）

全国におけるA型肝炎発生状況(平成25年～平成29年)



全国におけるA型肝炎年齢階級別発生状況(平成25年～平成29年)



◆近年、我が国ではA型肝炎の感染が少なくなり、A型肝炎ウイルスに対する抗体保有率が低下しているため、保育園等を含む施設内の集団発生や家族内感染への注意も必要です。